

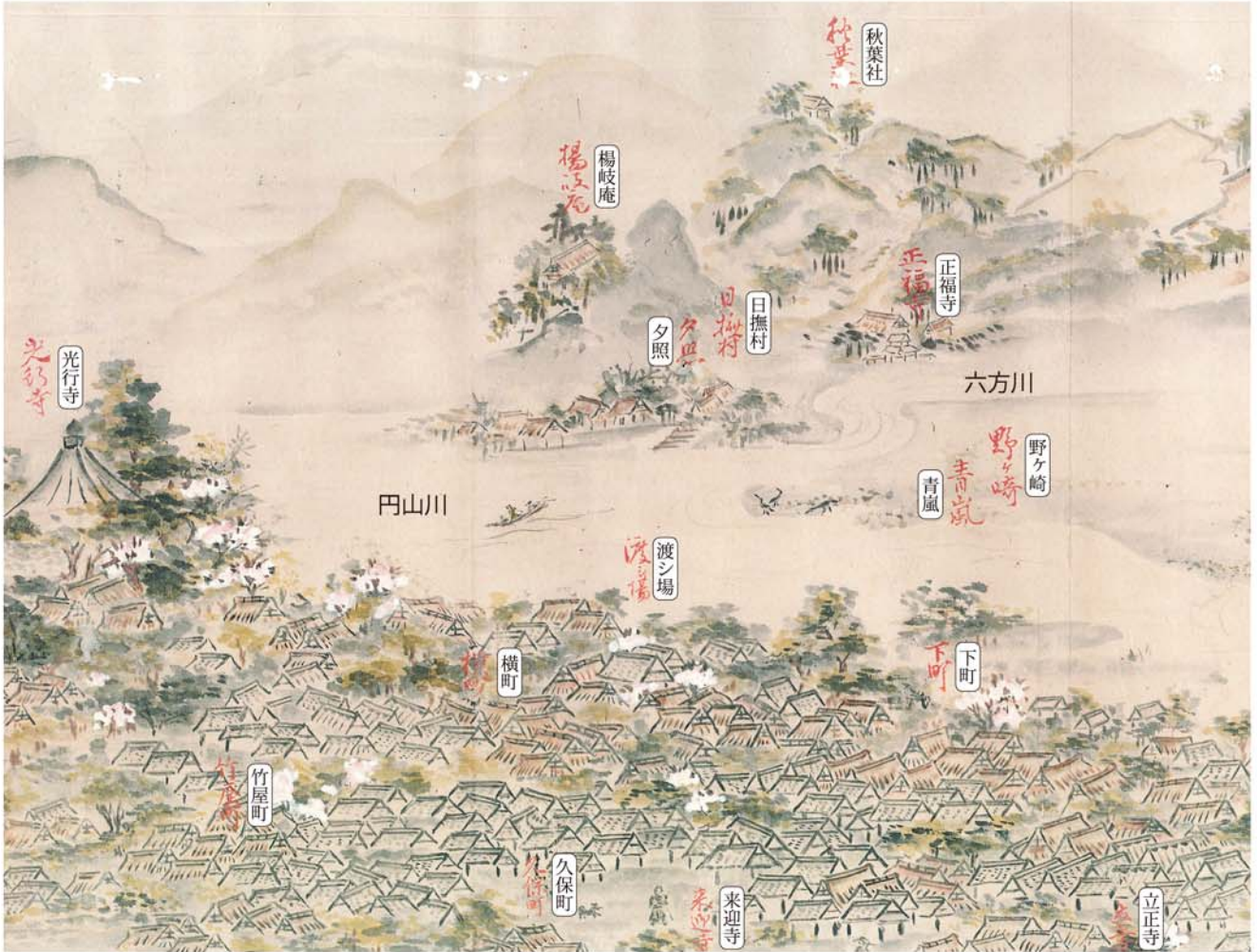


豊岡市立歴史博物館 ニュース

—但馬国府・国分寺館—

2015. 5 第41号

豊岡市立歴史博物館 〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町林布 808
—但馬国府・国分寺館— TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



「豊岡図絵巻」 豊岡市街地を南西方向から見た鳥瞰図です。中央に丸山川を、その両岸に現在の豊岡市元町、立野町、日撫などの町並みを描いています。「竹屋町」「久保町」「横町」など、今は失われてしまった地名も記されています。
〔江戸時代／個人蔵〕

第35回企画展 絵図から発見!! 但馬の歴史

絵図は、明治時代以降の測量技術による「地図」よりも前に作られた絵地図のこと。ただし、絵図は「古い時代の未熟な地図」ではなく、そこには独自の価値観と特有の表現内容が備わっていました。

豊岡市内にも、多くの絵図が残されています。絵図からは、失われてしまった土地の状況や江戸時代の情景が分かるのはもちろん、当時の人々の地理観や社会観をも知るこ

とができます。今回の展示では、さまざまな絵図から、但馬における中世・近世・近代史を紐解きます。これを機に、但馬に生きていた先人たちに思いを馳せていただくとともに、地域の歴史を見つめ直すきっかけにいただければ幸いです。

■会 期：平成27年5月8日（金）～9月15日（火）

■特に記載のない資料は、豊岡市教育委員会所蔵です。

絵図のはじまり

16世紀後半以降、織豊政権や江戸幕府など武力による統一政権が誕生しました。これらの政権は、農民の支配を強化し税を集めやすくするために、地方図(郡絵図、村絵図)や土地台帳(郷帳)を繰り返し提出させました。これが絵図のはじまりです。絵図は特定の目的のために作成されたものであり、描かれる地形や事柄は絵図によって異なっていました。



「佐野村絵図」(部分)
[江戸時代]

佐野村(豊岡市佐野)の絵図には、村内の道路、水路、家屋配置や耕地の所有状況のほか、寺社などの施設が描かれ、江戸時代の村の景観を視覚的に知ることができます。

中世の但馬

中世の但馬を支配していたのは山名氏。山名氏は室町幕府屈指の有力守護で、14世紀には、伯耆国(鳥取県)を拠点に11か国の守護を務め、全国66か国の6分の1を占めたことから、「六分一衆」と称されていました。

山名氏は、但馬守護として出石神社にほど近い此隅山城を居城としていましたが、天正2年(1574)、急峻な有子山山頂に城を移しました。その6年後、豊臣秀長らの攻撃により落城。200年にわたる山名氏の但馬支配は終わりを告げるとともに、但馬の近世が幕を開けたのです。



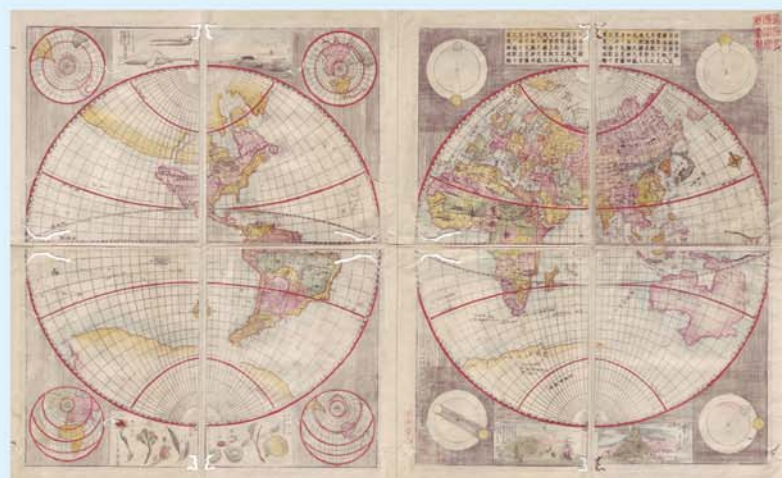
「但馬出石有子山古城ノ図」[江戸時代]

有子山城は、天正2年(1574)に山名祐豊によって築かれた城。標高321mの険しい山中にあり、主郭などには石垣が築かれていることから、防御に優れた城とすることができます。

Topics 江戸時代の世界図

18世紀、西洋製の図を手本にして、翻訳された国名や地名を記入した世界図が広まりました。「地球全図」は、絵師・蘭学者である司馬江漢が刊行したもので、日本初の銅版印刷による世界図です。東半球と西半球に分けて描かれています。

この頃、日本各地に外国の使節が来航し、幕府に通商を求めてきました。外国への警戒心の高まりは、より正確な世界地図が生み出されるきっかけとなったのです。



「地球全図」[寛政4年(1792)作成]

近世の但馬

江戸時代、但馬には出石藩と豊岡藩の2つの藩が置られました。ただし、「一国一城令」により大名の居城は出石のみ。出石は但馬の政治・経済・文化の中枢を担っていたのです。

出石藩主は、小出家・松平家が務めていましたが、宝永3年(1706)に仙石政明が信州上田藩から移り、その後、廃藩置県まで仙石家が代々藩主を務めました。その所領は、出石・養父・^{まさあきら}気多・^{けた}美含^{みくみ}4郡、石高は5万8千石に及んでいます。一方、豊岡藩主は杉原家が務めてきましたが、寛文8年(1668)、京極高盛が3万5千石の石高を有する藩主を拝領。幕末まで京極家が治めていました。

その他にも、生野銀山を中心とした幕府直轄領などがあります。このような所領構成や石高などの情報は、国絵図や郡絵図にも描かれており、当時の政治・経済を知る上で重要な資料となっています。



「但馬地図」
〔江戸時代／個人蔵〕

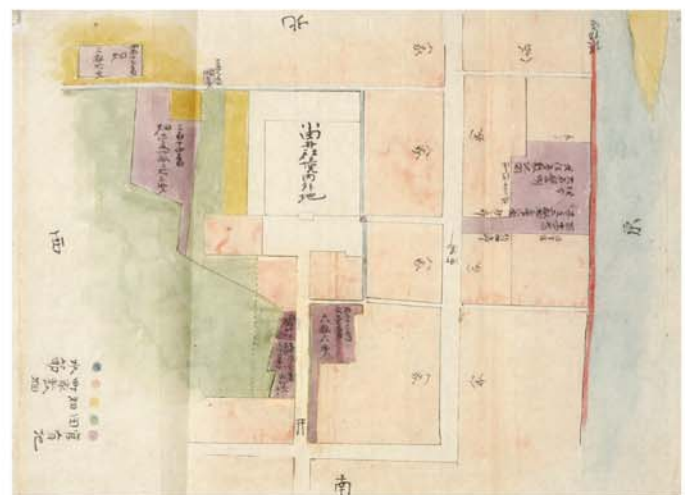
江戸時代、幕府は各国に国絵図の提出を求め、全国的に国絵図と土地台帳が作られました。国絵図は、山と海に囲まれた国を、黒い線で郡ごとに区画し、さらに楕円形で村々を描く点で特徴的。国・郡・村という政治・行政の体系を視覚的に表していたのです。

この絵図には、所領構成ごとに色分けされた村々が描かれています。また、国境には隣村の名前や距離などが記され、他国の様子も分かるように描かれています。



「出石城練堀修復願絵図」〔文政6年(1823)〕

出石城下町を守る外堀の練堀(◀部分)が大破したため、幕府に修理を願ひ出る際に描かれた図です。練堀とは、練った土と瓦とを交互に積み重ねて築いた堀のこと。



「小田井神社周辺図」〔江戸時代〕

小田井神社の門前町(豊岡市小田井町)は、丹後街道・因幡街道の起点かつ円山川水運の拠点。水陸交通の要衝として大いに栄え、中世から近世にかけて、城崎郡の中心的な集落だったのです。

● 廃藩置県と但馬

明治4年(1871)7月、近代的な中央集権国家を作るため、世襲制の領主が治める藩を解体し、中央政府によって任命された知事を長とした県が置かれました(廃藩置県)。当初、但馬には生野県・出石県・豊岡県・村岡県の4県が置かれますが、同年11月には丹波・丹後・但馬の11県を併合した豊岡県が成立。現在の豊岡市街地にあたる豊岡町は、人口50万人を有する豊岡県の県庁所在地として大いに栄えました。

しかし、行政効率の悪さなどから、豊岡県は明治9年(1876)に兵庫県に編入。わずか5年で豊岡県はなくなり、但馬は現在と同様、兵庫県に属することとなりました。



豊岡県庁舎(現在の豊岡市立図書館)

平成27年4月1日、館名が変わりました(住所や電話番号などには変更はありません)。今後ともご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

● 関連事業のお知らせ

■ 見学会「地図を片手に出石城下町を歩く」

日時:平成27年5月31日(日) 午前10時～

会場:豊岡市役所 出石庁舎前

講師:西尾孝昌さん(山名氏城跡保存会会長)

*資料代100円。駐車場代は各自でご負担ください。

*歴史博物館まで電話でご予約ください(定員30名)。

■ 講演会「絵図から見た豊岡の江戸時代」

会期:平成27年7月4日(土) 午後1時30分～

会場:豊岡市立歴史博物館 映像ホール

講師:石原由美子(豊岡市教育委員会 史料調査員)

*聴講には入館料が必要です。予約は不要です。

● 北但大震災と街並み整備

明治42年(1909)、鉄道が豊岡・城崎まで開通すると、豊岡町は活気を帯び人口は急増。ところが、低湿地が多く住宅建設ができる土地は限られていました。そのため、大正8年(1919)より、「寿ロータリー」を中心とした街路の整備が始まったのです。

しかし、大正14年(1925)5月、北但大震災が発生。焼失家屋1696戸など甚大な被害を及ぼしました。豊岡町では、道路の拡幅工事を進めるとともに官公庁の集中化を図るなど、震災を機に新たな街並みを整備していきました。



「震災前ノ豊岡町」(部分) [大正時代]

● 豊岡市立歴史博物館のご利用案内



博物館キャラクター
たじまる・くにひめ

- 開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 水曜日(祝日は開館し、翌日休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 一般 500(400)円
高校生 200(150)円
小中学生 150(100)円
*()は20名様以上の団体料金
* 県内小中学生は無料
* 65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は半額
- 最新情報はホームページをご覧ください。
<http://www.3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>
- facebook ページ公開中!
<http://www.facebook.com/tajima.kokubunjikan>